

# 平成9年度 厚生省心身障害研究 不妊治療の在り方に関する研究総括報告

主任研究者 矢内原 巧

生殖補助医療技術の発達に伴い、従来行われていた不妊治療は近年飛躍的に進歩したといえる。しかし、これらの医療技術がどのような患者にどの程度応用され、その治療効果がどうかについての報告や調査は全国的規模で行われていなかった。さらに、本邦における不妊患者の実態についても明らかでなかった。

一方、生殖補助医療の結果、拳児を希望する夫婦にとって光明をもたらすと同時に多胎妊娠、卵巣過剰刺激症候群を含む重大な副作用を生み、その結果低出生体重児や妊娠中毒症、早産など周産期医療にも重大な影響がみられるようになった。さらに、多胎妊娠の増加は医療面のみならず患者やその家庭にとっても身体的、精神的、経済的負担が多く、その結果多胎妊娠の継続を回避する目的で三胎妊娠以上の多くに対し減数手術が施行されていることが前年度までの調査で明らかとなった。本邦は未だ法的、社会的、倫理的コンセンサスを得ておらず、その安全性や医学的フォローアップもされていない。不妊治療はもはや医学上の問題のみならず、医療経済を含む社会的問題としても重要な課題となっている。

そこで『不妊治療の実態及び不妊治療技術の適用に関する研究』では、不妊原因の実態調査を中心に適切な不妊検査、治療が行われているかを検討するとともに、FTカテーテルを用いた卵管疎通治療の成績、機能性不妊症の実態を調査した。また不妊患者をとりまく種々のケアプランや患者の

相談事例を解析し総合的な不妊治療の在り方を検討した。

『多胎妊娠の予防に関する研究』では、多胎出産動向調査から平成8年度には四胎以上の出産率が激減していることが明らかとなりその原因について検討し、今後の課題を示した。また多胎予防のための最適な排卵誘発法の開発と成績を示した。

『多胎妊娠の管理に関する研究』では、多胎妊娠の母体合併症とその対策で妊娠中毒症、HELLP症候群の合併が多いことから妊婦血液検査(AT-III活性、血小板)の重要性と多胎妊娠管理における膜性診断の必要性を検討した。さらに、多胎妊娠の安全な分娩様式を示した。また、多胎児におけるNICU ベッド運用からみた医療体制システムを検討した。

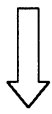
『男性不妊の実態及び治療に関する研究』を本年度より発足し男性不妊の原因を調査するとともに最近10年間の国内外の文献収集とその解析を行った。その結果、不妊における男性因子の重要性と今後その実態、治療法、効果等の追跡二次調査が必要であることが示された。

以上のごとく不妊治療の在り方に関する本研究は生殖医療に関する医学的問題のみならず社会的問題をも総括しており、これらの調査をもとに適切な周産期医療の指針を示すと同時に社会的支援の体制及び対策の重要性を指摘するものである。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



平成9年度 厚生省心身障害研究

不妊治療の在り方に関する研究総括報告

主任研究者 矢内原 巧

生殖補助医療技術の発達に伴い、従来行われていた不妊治療は近年飛躍的に進歩したといつてよい。しかし、これらの医療技術がどのような患者にどの程度応用され、その治療効果がどうであったかについての報告や調査は全国的規模で行われていなかった。さらに、本邦における不妊患者の実態についても明らかでなかった。

一方、生殖補助医療の結果、拳児を希望する夫婦にとって光明をもたらすと同時に多胎妊娠、卵巢過剰刺激症候群を含む重大な副作用を生み、その結果低出生体重児や妊娠中毒症、早産など周産期医療にも重大な影響がみられるようになった。さらに、多胎妊娠の増加は医療面のみならず患者やその家庭にとっても身体的、精神的、経済的負担が多く、その結果多胎妊娠の継続を回避する目的で三胎妊娠以上の多くに対し減数手術が施行されていることが前年度までの調査で明らかとなった。本邦は未だ法的、社会的、倫理的コンセンサスを得ておらず、その安全性や医学的フォローアップもされていない。不妊治療はもはや医学上の問題のみならず、医療経済を含む社会的問題としても重要な課題となっている。

そこで『不妊治療の実態及び不妊治療技術の適用に関する研究』では、不妊原因の実態調査を中心に適切な不妊検査、治療が行われているかを検討するとともに FT カテーテルを用いた卵管疎通治療の成績、機能性不妊症の実態を調査した。また不妊患者をとりまく種々のケアプランや患者の相談事例を解析し総合的な不妊治療の在り方を検討した。

『多胎妊娠の予防に関する研究』では、多胎出産動向調査から平成8年度には四胎以上の出産率が激減していることが明らかとなりその原因について検討し、今後の課題を示した。また多胎予防のための最適な排卵誘発法の開発と成績を示した。

『多胎妊娠の管理に関する研究』では、多胎妊娠の母体合併症とその対策で妊娠中毒症HELLP 症候群の合併が多いことから妊婦血液検査(AT- 活性、血小板)の重要性と多胎妊娠管理における膜性診断の必要性を検討した。さらに、多胎妊娠の安全な分娩様式を示した。また、多胎児におけるNICU ベッド運用からみた医療体制システムを検討した。

『男性不妊の実態及び治療に関する研究』を本年度より発足し男性不妊の原因を調査するとともに最近10年間の国内外の文献収集とその解析を行った。その結果、不妊における男性因子の重要性と今後その実態、治療法、効果等の追跡二次調査が必要であることが示された。

以上のごとく不妊治療の在り方に関する本研究は生殖医療に関する医学的問題のみならず社会的問題をも総括しており、これらの調査をもとに適切な周産期医療の指針を示すと

ともに社会的支援の体制及び対策の重要性を指摘するものである。